

授業デザインワークショップ

【実施概要】

▶講師

小林直人, 佐藤浩章, 秦敬治, 城間祥子
(愛媛大学教育企画室)

▶日時

第14回 平成22年7月10日(土)～11日(日)
第15回 平成22年9月1日(水)～2日(木)

▶場所

第14回 久万高原ふるさと旅行村
第15回 国立大洲青年の家

▶参加者

第14回 10名(学内8名, 学外2名_香川大学)
第15回 14名(学内6名, 学外8名_聖カタリナ大学・今治明
徳短期大学・徳島文理大学・香川県立保健
医療大学)

▶目標

1. 適切な目的・目標設定ができるようになる。
2. わかりやすいシラバスを書けるようになる。
3. 様々な授業方法を知り, 目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
4. 様々な成績評価方法を知り, 目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
5. グループ学習の手法を, 自らの授業で導入することができるようになる。

▶内容

1. オリエンテーション・愛媛大学における教育改善
・研修の目的・目標の確認・スタッフの紹介とお願い
2. アイスブレイキング・自己紹介・グループワーク
3. グループワークⅠ「学生の学習を促進する授業, 学習を促進しない授業」
4. 講義Ⅰ「目標設定と授業計画・シラバスの作成」
・目標設定と授業計画の立て方・シラバスの書き方
5. グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅰ」
・目標設定・授業計画, シラバスを作る
6. 講義Ⅱ「様々な授業方法」
・講義形式のメリット・デメリット
・双方向型授業のコツ・マイクロティーチング
7. グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅱ」
・授業計画と評価計画
8. グループ発表Ⅰ「中間発表」
9. グループワークⅣ「共通教育科目」
10. 講義Ⅲ「学習評価方法」
・学習評価の目的・評価方法と評価対象
・試験問題の出し方
11. グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅳ」
・役割決定・授業練習
12. グループ発表Ⅲ「ミニ授業(導入の10分)」
・授業紹介・ミニ授業
・他グループからのフィードバック
・フロアも交えた討議・検討
13. 振り返り

【アンケート結果】

▶回答者

第14回 10名(100%)
第15回 14名(100%)

▶満足度

〔本ワークショップは全体を通して満足できるものであった〕
そう思う: 100%(第14回), 85.7%(第15回)
どちらかといえばそう思う: 14.3%(第15回)

▶コメント

〔今回のワークショップであなたが学んだ点,
それに影響されて教育実践の場でやってみたい点〕

第14回

○授業デザインを学べるだけでなく, 学部間の交流ができるよい機会となりました。スタッフの方々にも親切に頂き, 充実した交流会もあり, 中身の濃い研修になったと感じています。

第15回

○正直なところ, 私は今までシラバスに対してそれほど的重要性を感じていなかった。しかし, 今回のワークショップに参加してシラバスの重要性と意義について認識を新にした。また, 評価方法や各種授業方法を学ぶことができたことと私の授業について他者の意見が聞けたことは大きな収穫であった。特に私の場合は授業中における学生とのコミュニケーションスキルに欠けることを再認識したので今後改善していきたい。

〔本ワークショップの改善点等, 意見・感想〕

第14回

○他学部の先生方交流できる良い機会であった。私はワークショップの内容自身に興味があったのでそうでもないが, 周りの先生方は, 参加前に結構面倒に感じている印象がある。新任は義務だからといった形で。なので, ワorkshop案内をする際に, このような参加者の事後アンケートから, 肯定的な意見を紹介してはどうか。私が目にしていないだけであったら, すみません。久々に本当に充実したワークショップでした。

第15回

○業務命令のようなかたちで参加致しましたが, 一度も聞いたことがないことやシラバスの書き方や授業の展開について学ぶことができました。わかりやすく説明して頂けるスタッフによるワークショップであるためもっと時間を多くして頂き, 多くのことを学ぶことができればと思いました。欲を言えば, 教員2年目に参加させて頂けたらもっと多くのことを吸収できたかなと思いました。



学習評価の基本

【実施概要】

▶講師

佐藤浩章, 城間祥子(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成22年8月25日(水) 13:00~15:00

(SPODフォーラム2010期間中)

▶場所

愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2
遠隔システム

▶参加者

愛大ミュージズ 19名(学内4名, 学外15名_徳島工業短期大学, 今治明德短期大学, 中部大学, 秋田県立大学, 島根県立大学, 岡山理科大学, 玉川大学 他)

遠隔システム 18名(香川大学, 高知女子大学, 松山東雲女子大学, 阿南工業高等専門学校)

▶目標

1. 学習評価の原則を説明することができる。
2. 形成的評価と総括的評価の違いと重要性を説明できる。
3. 多様な学習評価方法を知り, 自らの授業で活用できる。

▶内容

1. 学習評価の原則
 - ・学習評価の意義
 - ・到達目標設定の重要性
 - ・診断的・形成的・総括的評価
 - ・様々な学習評価方法
2. 学習評価の公平性
 - ・絶対評価と相対評価
 - ・専門分野毎の評価に対する考え方
3. テストの作成
 - ・作問のコツ
 - ・様々なテスト実施法
 - ・テスト実施の際の注意点
4. 学習評価の厳密化と効率化
 - ・ルーブリック評価
 - ・学生相互評価

【アンケート結果】

▶回答者

愛大ミュージズ 19名(100%)

遠隔システム 14名(77.8%)

▶満足度

〔研修は全体的に満足できるものだった〕

そう思う: 77.8%(愛大), 50.0%(遠隔)

どちらかといえばそう思う: 22.2%(愛大), 42.9%(遠隔)

どちらかといえばそう思わない: 7.1%(遠隔)

▶コメント

〔このセミナーの良かった点〕

愛大ミュージズ

○教員からの考えだけでなく授業を受ける学生目線での考え方の一端に触れることが出来た。

遠隔システム

○担当している実習の評価に関して様々な評価方法を用いていたが, それぞれの意義の再確認が出来た。今後, 評価方法と改善していく際にも参考にできる内容であった。

○ルーブリック評価について知ることができよかった。ぜひ実践してみようと思った。

○普段, 学習評価として行っている内容の有効性が確認できました。今後, セミナーの内容を活かしてより良いものに出来ればと思います。

〔このセミナーの改善点〕

愛大ミュージズ

○実習/講義系と評価にちがいががあるのでそれぞれでも知りたかったです。

○専門分野が異なるのもよいが, 同じ分野でのG・Wもよかったと思います。

遠隔システム

○各学部にも配信されるともっと参加しやすいと思う。



わかりやすいシラバスの書き方

【実施概要】

▶講師

城間祥子(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成22年8月25日(水) 15:30～17:30

(SPODフォーラム2010期間中)

▶場所

愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

遠隔システム

▶参加者

愛大ミュージズ 18名(学内1名, 学外17名 愛媛県立医療技術大学, 今治明德短期大学, 中部大学, 京都産業大学, 島根県立大学, 山口県立大学, 玉川大学 他)

遠隔システム 9名(高知女子大学, 松山東雲女子大学, 高知学園短期大学)

▶目標

1. わかりやすいシラバスを書くことができるようになる。
2. 学習者が自学自習に励むようなシラバスを書くことができるようになる。

▶内容

1. シラバスとは何か？
 - ・定義
2. 授業題目・キーワードの書き方
 - ・英文併記
 - ・わかりやすく書く
3. 授業目的と到達目標の書き方
 - ・授業の目的の書き方
 - ・到達目標の書き方
4. 授業内容・スケジュールの書き方
 - ・無理のない進み具合
5. 受講生に関わる情報の書き方
 - ・受講にあたっての前提条件
 - ・ニーズと授業内容のミスマッチ防止
6. 受講ルールの書き方
 - ・受講マナー
7. 教材情報の書き方
 - ・学問への誘い
8. 評価情報の書き方

【アンケート結果】

▶回答者

愛大ミュージズ 18名(100%)

遠隔システム 8名(88.9%)

▶満足度

〔研修は全体的に満足できるものだった〕

そう思う: 72.2%(愛大), 37.5%(遠隔)

どちらかといえばそう思う: 22.2%(愛大), 62.5%(遠隔)

どちらかといえばそう思わない: 5.6%(愛大)

▶コメント

〔このセミナーの良かった点〕

愛大ミュージズ

○シラバス作成上のチェックシート, 手引書等の作成にとっても役立つ内容でした。

○シラバスを作成するにあたってのポイントが整理できました。余裕がないと内容が曖昧になるので, 来年度はもっと早く着手します! ありがとうございます。

○グループの方々と話すことによって, 各学校の違いがよく分かった

遠隔システム

○自分のシラバスの欠点が具体的に分かり, 来年度に向けて改善できると思う。

○学生にとって分かりやすい(特に到達目標)シラバスができるようになると思う。

〔このセミナーの改善点〕

愛大ミュージズ

○他の教育機関のシラバスを数多く示していただけるとよいと感じた。

○悪いシラバスを例示する方法がユニークだった。その例を社会科学分野のものも取り入れてもらえると助かります。



学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法

【実施概要】

▶講師

佐藤浩章, 城間祥子(愛媛大学教育企画室)

▶日時

第1回 平成23年1月13日(木) 14:30~16:10

第2回 平成23年1月19日(水) 13:00~14:30

▶場所

愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2
遠隔システム(第2回のみ)

▶参加者

第1回 10名(学内6名, 学外4名_大阪大谷大学, 帝塚山学院大学, 大阪府立大学, 桃山学院大学_)

第2回 10名(学内9名, 学外1名_松山大学)

遠隔システム 16名(香川大学, 香川短期大学, 高松大学, 高松短期大学)

▶目標

1. わかりやすいシラバスを書くことができるようになる。
2. 学習者が自学自習に励むようなシラバスを書くことができるようになる。

▶内容

1. シラバスとは何か?
 - ・定義
2. 授業題目・キーワードの書き方
 - ・英文併記 ・わかりやすく書く
3. 授業目的と到達目標の書き方
 - ・授業の目的の書き方 ・到達目標の書き方
4. 授業内容・スケジュールの書き方
 - ・無理のない進み具合
5. 受講生に関わる情報の書き方
 - ・受講にあたっての前提条件
 - ・ニーズと授業内容のミスマッチ防止
6. 受講ルールの書き方
 - ・受講マナー
7. 教材情報の書き方
 - ・学問への誘い
8. 評価情報の書き方

【アンケート結果】

▶回答者

第1回 10名(100%)

第2回 9名(90.0%)

遠隔システム 12名(75.0%)

▶満足度

〔研修は全体的に満足できるものだった〕

そう思う:80.0%(第1回), 66.7%(第2回), 25.0%(遠隔)

どちらかといえばそう思う:20.0%(第1回), 33.3%(第2回), 58.3%(遠隔)

どちらかといえばそう思わない:16.7%(遠隔)

▶コメント

〔このセミナーの良かった点〕

愛大ミュージズ

○研修項目が最初に示され、それに向けて体系的に講義が進められたことと, “シラバスの活用法”というタイトルそのものの内容が具体的に講義されたことが非常に印象的でした。

○自分自身の疑問に対して, 個別対応も丁寧にしてくださいました。また具体例を使うことで, 内容も非常にわかりやすくなりました。

遠隔システム

○シラバスを作成する上で注意すべき点を明確化, 明示化することができた。

○セミナーが演習形式になっていて, 理解度を深められた。

〔このセミナーの改善点〕

愛大ミュージズ

○時間的制約(90分)があったので仕方ありませんが, やはり具体的にワークすると, 内容が再確認でき, しっかり理解できるようになります。

○シラバスの練習問題の時間がありもう少しほしかった。作成したシラバスを相談する時間が欲しかった。

遠隔システム

○授業を受ける学生の質, 態度について, もう少し詳しい設定を行う必要があるのではないか。



グループ学習のコツ

【実施概要】

▶講師

小林直人, 城間祥子(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成22年9月10日(金) 15:30~17:30

▶場所

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

8名(学内6名, 学外2名_松山東雲女子大学, 徳島文理大学)

▶目標

1. 学生がいきいきとグループワークに参加できる仕組みについて説明することができる。
2. 現状よりも活発なグループワークをしかけることができるようになる。

▶内容

1. アイスブレイク
 - ・自己紹介
2. グループワーク
 - ・いいグループワーク
 - ・悪いグループワーク
3. 成功するグループワークのカギ
 - ・第一のカギ
 - ・第二のカギ
 - ・第三のカギ
4. グループワークの進め方
 - ・グループワークの流れ
 - 導入(つかみ): 受け入れる準備
 - 本体: 感じる・考える・創り出す
 - まとめ: 持ち帰る
 - ・ファシリテーターの基本スキル
5. グループワークの必須アイテム
6. 振り返りと質疑応答

【アンケート結果】

▶回答者

7名(87.5%)

▶満足度

[研修は全体的に満足できるものだった]

そう思う: 85.7%

どちらかといえばそう思う: 14.3%

▶コメント

[このセミナーの良かった点]

- 自分が現在行っているGWについて、振り返ることができました。改善点も見つかりましたので、授業に活かしていきたいと思います。
- グループワークを進めるための細やかなコツなどが具体的に示されていてよかったと思う。
- 講師の方の具体的な事例をお示しいただいたこと。
- グループワークの実施にあたっての具体的なポイント・注意点を指摘していただいたこと。
- 後学期の授業に活かしていける内容でした。

[このセミナーの改善点]

- GWで取り組みやすい問いの作り方など学びたいです。
- スライド資料が手元があれば、よりフォローしやすかったかと感じます。スライド資料が手元があれば、よりフォローしやすかったかと感じます。



講義のための話し方入門

【実施概要】

▶講師

小林直人(愛媛大学教育企画室)
飯島永津子(愛媛大学医学部教育協力者)

▶日時

平成22年9月10日(金) 13:00~15:00

▶場所

愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2
遠隔システム

▶参加者

愛大ミュージズ 14名(学内13名, 学外1名_聖カタリナ大学)
遠隔システム 14名(松山東雲女子大学, 高知学園大学,
阿南工業高等専門学校)

▶目標

1. 「学生中心の大学」の実現のために“良い”授業ができるようになる。⇒“良い”授業とは？
 - ・わかりやすい授業 ・知的な緊張感のある授業
 - ・学生が参加する(した気にさせる)授業
2. 講義をするときに注意が必要な話し方のコツを実習を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことができる。

▶内容

1. イントロダクション
 - ・本日のメニュー ・本日の目的と目標
2. 講師が気をつけていること
 - ・どうしたらわかりやすい話し方ができるか？
 - ・発音しにくい言葉 ・区別しにくい言葉
3. 実例を元に演習
 - ・聞き手が理解しやすい話し方
 - ・どう話すか？の前に何を話すか？
4. 休憩とストレッチ
5. 外部講師(教育協力者)による発声練習
 - ・大きな声を出すためには？
 - ・はっきりと発音するためには？
6. まとめ・セルフアセスメント
 - ・あらためて、「良い」授業とは？
7. 質疑応答

【アンケート結果】

▶回答者

愛大ミュージズ 13名(92.9%)
遠隔システム 13名(92.9%)

▶満足度

〔研修は全体的に満足できるものだった〕
そう思う:84.6%(愛大), 23.1%(遠隔)
どちらかといえばそう思う:15.4%(愛大), 76.9%(遠隔)

▶コメント

〔このセミナーの良かった点〕

愛大ミュージズ

- 声の出し方がよく分かった。実際に発声練習ができて気持ちが上がった。
 - 講師の先生がお二人ともお話が上手で聞いていること自体が勉強になりました。内容では具体例が多く理解しやすかったです。
 - 講師の声を生で聴くことができ、聴き取りやすい声を体験できたこと。トレーニング方法について具体的に学べた。
- 遠隔システム
- プロのトレーニング法や練習内容の一端を見られたこと、子音を意識して話すという点は良かった。
 - 発声などの具体的な訓練が有益であった。

〔このセミナーの改善点〕

愛大ミュージズ

- 後半、飯島先生の講義時間、あと5割増〜90分あると、さらに実践を積めて効果大だったかと思います。(こんなにいろいろな訓練手法があるとは興味が尽きません！)
 - 話し方(アナウンサー訓練のような)ものもあるとよい。文章などやアナウンス、プレゼンなどの内容のあるものを。
- 遠隔システム
- 愛媛大学の受講の様子も映るとより臨場感が出たように思う。最初の自己紹介は、簡単なテーマを明示してから始めるとポイントなどが分かりやすくなったかも…。



大人数講義法の基本

【実施概要】

▶講師

小林直人(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成22年8月28日(土) 13:00～15:00
(SPODフォーラム2010期間中)

▶場所

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

16名(学内16名, 学外0名)

▶目標

1. 「学生中心の大学」の実現のために“良い”授業ができるようになる。⇒“良い”授業とは？
 - ・わかりやすい授業
 - ・知的な緊張感のある授業
 - ・学生が参加する(した気にさせる)授業
2. 様々な授業スキルを実際の体験を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことが出来る。

▶内容

1. はじめに 敵を知り己を知る
2. 「授業スキル」のいろいろ
3. 「板書」の基本テクニック
4. 「プリント」の基本テクニック
5. 「コミュニケーション」の基本テクニック
6. 休憩とストレッチ
7. 参加/体験型授業の例
グループワークを経験する
8. 「キーワード」を明示する
9. まとめとセルフアセスメント
あらためて、「良い」授業とは？
10. 質疑応答

【アンケート結果】

▶回答者

16名(100%)

▶満足度

〔研修は全体的に満足できるものだった〕

そう思う: 56.3%

どちらかといえばそう思う: 37.5%

そう思わない: 6.3%

▶コメント

〔このセミナーの良かった点〕

- 授業のいろいろなテクニックを学べた。今後の授業に生かせるように努力したい。
- 何点かポイントとして今後の授業にとり入れられる(すぐに導入出来る)ものが分かった。
- 具体的な説明があり、分かりやすかったと思います。
- 授業時間の使い方(宿題の出し方を含む)についての話は使えると思いました。
- 最初と最後にクイズ・文殊カード等の方法をぜひ取り入れたい。
- 大人数講義のイメージをつかむことができた。
- 学生の参加意識を高める具体的な方法・ツールをいくつも知ることができた。
- 講義をする上で、90分を6～7回に分けるという考え方が、授業を組み立てる上で役立ちそうだった。
- キーワードを学生に認識させる方法がわかってよかった。

〔このセミナーの改善点〕

- 模擬授業などがあるとよい。
- 参加者で具体的な方法を実施している人がいれば、実物を持ち寄ってそれについてコメントし合うというのはいかがでしょう。



大人数講義法の基本(遠隔配信専用プログラム)

【実施概要】

▶講師

小林直人(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成22年8月26日(木) 10:00~12:00
(SPODフォーラム2010期間中)

▶場所

遠隔システム

▶参加者

35名(学外35名_高知大学, 愛媛医療技術大学, 高知女子大学, 四国大学, 松山東雲女子大学, 香川短期大学, 高知学園短期大学, 阿南工業高等専門学校)

▶目標

1. 「学生中心の大学」の実現のために“良い”授業ができるようになる。⇒“良い”授業とは？
 - ・わかりやすい授業
 - ・知的な緊張感のある授業
 - ・学生が参加する(した気にさせる)授業
2. 様々な授業スキルを実際の体験を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことが出来る。

▶内容

1. はじめに 敵を知り己を知る
2. 「授業スキル」のいろいろ
3. 「板書」の基本テクニック
4. 「プリント」の基本テクニック
5. 「コミュニケーション」の基本テクニック
6. 休憩とストレッチ
7. 参加/体験型授業の例
 - グループワークを経験する
8. 「キーワード」を明示する
9. まとめとセルフアセスメント
 - あらためて、「良い」授業とは？
10. 質疑応答

【アンケート結果】

▶回答者

26名(74.3%)

▶満足度

〔研修は全体的に満足できるものだった〕

そう思う: 53.8%

どちらかといえばそう思う: 38.5%

どちらかといえばそう思わない: 7.7%

▶コメント

〔このセミナーの良かった点〕

○学内教員とGWができたこと。

○遠隔授業の実際を体験できたこと。

○日頃から疑問をもっていた内容については、話をしていただけで、今後に生かせる内容だと思った。

○内容が実践的で且つ、質問にも丁寧に対応してくださりました。

○大人数講義で改善したいが、どう改善したら上手くいくのかわからなかった点など、とても参考になりました。後期から実践してみます。

○先生の説明がよく聞こえました。

○板書の際の字の大きさも具体的(A4サイズ)で分かりやすかったです。

○学生と1対1のやりとりではなく、1対2~3のやりとりをしてさらにあなたの意見でなくていいというのは大変参考になりました。

〔このセミナーの改善点〕

○せっかく遠隔システムで様々な大学がつながっていたので、もっと色々な事例が聞きたかった。是非、もっと多くの教職員に受講してもらいたい。

○今日の授業の最初の文殊カードのやり方が最初よく分かりませんでした。

○遠隔システムとWeb等のネットをうまく強調させると良い。



Eラーニング入門

【実施概要】

▶講師

平田 浩一（愛媛大学教育学部）

▶日時

平成22年9月3日（金） 15:30～17:30

▶場所

愛大ミューズ2階学習支援室3

▶参加者

12名（学内12名，学外0名）

▶目標

1. Eラーニングソフト Moodle を体験する。
2. Eラーニングで何ができるかを知る。
3. Eラーニングのコース作成法を学ぶ。

▶内容

1. Moodleとは
2. コースへのログイン
3. コンテンツ（文書＆動画）のアップロード？
4. ファイルの取り扱い，ファイル名についての注意
5. フォーラム（掲示板）によるディスカッション
6. レポート課題の提出
7. 小テストの作成と実施？
8. 採点と成績（評定）の管理？
9. メール送信（クイックメール）
10. ログの確認

【アンケート結果】

▶回答者

12名（100%）

▶満足度

〔研修は全体的に満足できるものだった〕

そう思う: 58.3%

どちらかといえばそう思う: 41.7%

▶コメント

〔このセミナーの良かった点〕

○Moodleの名前は良く聞くんが、どのようなものかわからなかったの、具体的な使い方が分かってよかった。

○PCを操作しながらなのでわかりやすかった。

○e-Learningを活用するきっかけになった。ぜひ後期からやってみたい。

○授業に部分的に導入可能な点。

○Eラーニングとはどういうものか初めて理解できた。

○小テストや出欠確認について省力化できる。

〔このセミナーの改善点〕

○短時間のセミナーだけでは限界がある。このセミナープラス、使用時に困った時のためのヘルプデスク的なものがあるといいと思う。

○2時間でも時間がたちないと感じました。基礎、発展等コースを設定してはいかがでしょうか。

○このシステムはどのようにすれば利用できるのかをまず最初に示すと分かりやすかったです。進度が速すぎます。

○一度で理解しがたい点がある。わかりやすいマニュアルがあると復習できる。



ルーブリックを作ろう！-成績評価の厳密化と効率化のために-

【実施概要】

▶講師

佐藤浩章(愛媛大学教育企画室)
井上敏憲(愛媛大学アドミッションセンター)

▶日時

平成22年9月7日(火) 13:00~15:00

▶場所

愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2
遠隔システム

▶参加者

愛大ミュージズ 8名(学内8名, 学外0名)
遠隔システム 16名(香川大学, 香川短期大学, 松山東雲
大学, 高知学園短期大学, 阿南工業
高等専門学校)

▶目標

1. ルーブリック評価のメリットを説明することができる。
 2. 自らの授業で活用できるルーブリックを作成する。
- ※ルーブリックとは、教育・学習成果の評価の厳密化と効率化を進めるために使われる評価ツールです。二軸からなる表で構成されており、簡単に作成することができます。講座では様々な事例を紹介しながら、時間内に作成をします。作成したルーブリックは、ルーブリックバンクを通して他者と共有することができます。

▶内容

1. ルーブリックとは何か？
2. なぜルーブリックを使うのか？
3. ルーブリックをどうやって作成するか？
ルーブリック作成の4段階
第1段階: 振り返り(リフレクティング)
第2段階: リスト作成
第3段階: グループ化とラベリング
第4段階: 適用
4. ルーブリック作成(個人ワーク)
5. ルーブリックブラッシュアップ
(グループワーク)
6. ルーブリックを使って採点する

【アンケート結果】

▶回答者

愛大ミュージズ 8名(100%)
遠隔システム 11名(68.8%)

▶満足度

[研修は全体的に満足できるものだった]
そう思う: 37.5%(愛大), 45.5%(遠隔)
どちらかといえばそう思う: 37.5%(愛大), 54.6%(遠隔)
どちらかといえばそう思わない: 25.0%(愛大)

▶コメント

[このセミナーの良かった点]

愛大ミュージズ

○研究のツールとしてルーブリック評価の活用について知ることができた。

○理系科目の講義にルーブリックを利用するのは難しい面もあるが、評価の客観性をチェックするために利用できないか考えるきっかけになった。

遠隔システム

○ルーブリックを学生評価と照らし合わせながら点数をつけることで、より良い評価となることが分かり、今後活用していきたいと思います。

○実習科目(作品製作)では、学生にとって何故その評価がついているのかわかりづらいと思うが、客観的な評価の観点を示す点数の尺度を設けることで、教員・学生に納得のいく成績評価につながると感じた。

[このセミナーの改善点]

愛大ミュージズ

○本大学は理系のウェイトが高いのでそれを意識した内容も用意していただきたい。

遠隔システム

○遠隔での受講のため、自分のルーブリックがどうなのか判断できません。できれば、送付したルーブリックを評価し、フィードバックしていただければ大変ありがたいのですが。



パワーポイント基本技・便利技

【実施概要】

▶講師

二神透(愛媛大学総合情報メディアセンター)

▶日時

平成22年9月3日(金) 13:00~15:30

▶場所

愛大ミュージズ2階学習支援室3

▶参加者

11名(学内4名, 学外7名_松山東雲女子大学)

▶目標

1. プレゼンテーションと基本操作の習得
2. 図形・写真・表やグラフの作成・挿入
3. 動画の挿入・ハイパーリンクの活用
4. 各種アニメーションの設定と実行

▶内容

1. 基本操作編
 - ・効果的なプレゼンとは
 - ・Power Point2007の基本
 - ・スライド作成の基本
2. 図形・写真・表やグラフの作成・挿入
 - ・図形を描こう
 - ・写真の加工
 - ・表を作成しよう
 - ・グラフを作成しよう
 - ・パワーポイントへの挿入
3. 動画の挿入・ハイパーリンクの活用
 - ・ハイパーリンクとは
 - ・動画の挿入
4. 最終調整, 資料準備編
 - ・スライドのデザイン
 - ・スライドショーの設定
 - ・配布資料の作成
5. プレゼンテーション実行編
 - ・スライドショー
 - ・動作設定ボタンの利用
 - ・アニメーション

【アンケート結果】

▶回答者

11名(100%)

▶満足度

[研修は全体的に満足できるものだった]

そう思う: 63.6%

どちらかといえばそう思う: 36.4%

▶コメント

[このセミナーの良かった点]

○パワーポイントの便利な使い方や基本的な技が身についた。自分の業務に活かせたいと思った。

○今まで2003を使用していて、今回2007に触れるのが初めてであったが、分かりやすい講義で色々吸収することが多かった。

○基本がよく分かった点。

○今回十分満足できる内容でした。

○普段使用していないが、今後は積極的に使用したいと思う。取り掛かるにはそのきっかけになった。

○いつでもヘルプしてくださるスタッフが控えてくださったことが助かりました。

○パワーポイントを使用する際、意欲的に取り組むことができそうです。

○1つでも自分の知らない知識を得たことがよかった。

○現在PP2003で業務を行っているが、2007の新機能を知ることができて良かったです。

[このセミナーの改善点]

○もう少し時間を取って、もう少し内容を多くと希望。

○中・上級レベルのプログラムも選べればよかったと思う。



Webカメラで超簡単動画教材作成法

【実施概要】

▶講師

大竹奈津子, 岸岡洋介(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成22年8月31日(火) 15:30~17:30

▶場所

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

3名(学内1名, 学外2_徳島工業短期大学, 愛媛県立医療技術大学)

▶目標

WEBカメラを使って教材を作成することができる。

▶内容

1. WEBカメラの基本操作
2. 撮影する
3. 保存する
4. パワーポイントに動画を挿入する
5. 教材作成演習
6. プレゼンテーション

※動画を使った教材を作成したいけれども、ビデオカメラでの撮影や動画編集ソフトを使った編集が面倒で続かないという方、高画質でなくても構わないという方、映像といっても短時間だけで十分という方にお薦めの講座です。インターネット上でのテレビ電話・会議などで使われるWEBカメラを活用して、教材作成をする技術を学びます。

【アンケート結果】

▶回答者

3名(100%)

▶満足度

[研修は全体的に満足できるものだった]

そう思う: 100%

▶コメント

[このセミナーの良かった点]

○少人数で理解しやすかった。

○Webカメラを簡単に気軽に活用できる方法として、とても参考になった。

[このセミナーの改善点]

○もう少し長時間指導して欲しいと思います。



授業の双方向性を高めるクリッカー入門編

【実施概要】

▶講師

久保研二(広島大学教育学研究科)

▶日時

平成22年8月28日(土) 10:00~12:00
(SPODフォーラム2010期間中)

▶場所

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

11名(学内7名, 学外4_中部大学, 山口県立大学, 秋田県立大学, 愛媛大学附属高等学校)

▶目標

- ・クリッカーの使い方を説明することができる。
- ・クリッカーを用いた授業や学会発表の方法について述べることができる。

▶内容

1. イントロダクション
 - ・自己紹介
 - ・クリッカーとは?
 - ・今日の目標, 内容
2. クリッカーの使い方
 - ・インストール
 - ・スライドの作成
 - ・プレゼンテーション
 - ・レポートの作成

【アンケート結果】

▶回答者

11名(100%)

▶満足度

[研修は全体的に満足できるものだった]

そう思う: 72.7%

どちらかといえばそう思う: 27.3%

▶コメント

[このセミナーの良かった点]

○クリッカーの中身が分かった。

○クリッカーの具体的な使い方がよくわかったし, 実際に使うときに起こりうる問題点についても本当によく理解できた。

○クリッカーの使い方, クリッカーを用いた授業の組み立てが, 具体的に理解できたこと。

○貴重な講義をいただきありがとうございました。大変参考になりました。

○すぐに活かせる内容だったので, とても良かったです。

[このセミナーの改善点]

○システムのトラブルも, 使う際に起こりうることとして知ることができたので, 全然問題ではないと思う。

○クリッカー問題の共有サイトを作りたい。

○ネットで他大学とつないでみたい。

○アシスタントの方がいると良かった。

○授業で使っている様子をビデオで見せてくれるとイメージがわかると思いました。



学習動機を高める授業

【実施概要】

▶講師

佐藤浩章(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成22年9月14日(火) 13:00~17:00

▶場所

愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

5名(学内2名, 学外3_松山東雲女子大学, 高知大学)

▶目標

1. 学習動機が低い学習者の心理状況を説明することができる。
2. 主要な動機付け理論を説明できる。
3. 様々な質問技法を知り, 自らの授業で活用することができる。
4. 効果的なフィードバック技法を知り, 自らの授業で活用することができる。
5. 様々な教室管理の手法を知り, 自らの授業で活用することができる。
6. 自らのインストラクションの強みと弱みを知る。

▶内容

1. はじめに
 - ・はじめに
 - ・過去のインストラクション分析
 - ・今日の内容
2. 実施前
 - ・演習(マイクロティーチング)
 - ・振り返り
 - ・参加者分析
 - ・2種類の緊張緩和
3. 実施中
 - ・動機付け
 - ・質問
 - ・グループ作業
 - ・グループの学習段階モデル
 - ・教室管理
4. 実施後
 - ・演習(マイクロティーチング)
 - ・振り返り

【アンケート結果】

▶回答者

5名(100%)

▶満足度

[研修は全体的に満足できるものだった]
 そう思う: 100%

▶コメント

[このセミナーの良かった点]

- 自分の課題点(質問の間の取り方, クラウティの比率)が明確になりました。今後に役立てていけそうです。
- 最初と最後でインストラクションが随分できやすくなりました。体験的に理解することができたので, とてもよい学びの時間になりました。ありがとうございました。
- 時間の配分, C・G比など原理的に知ることができた。質問の仕方, 種類も役立ちそう。
- マイクロティーチングで自分の強みと弱みを確認でき, それらの改善方法が他者の助言や講義で具体的に示されたこと。

[このセミナーの改善点]

- 他大学の教員の抱えている悩みについてディスカッションする時間を加えていただけると, より助かったかと思えます。ですが, 全体としては満足しました。ありがとうございました。



メンタルヘルス研修

【実施概要】

▶講師

矢野千春(アビリティセンター(株))

▶日時

平成22年12月8日(水) 14:00～16:00

▶場所

愛媛大学本部2階第2会議室

▶参加者

24名(学内21名, 学外3_愛媛大学附属中学校, 松山大学, 四国大学)

▶目的

学生及び教職員に対し, 人権問題についての正しい認識を養うとともに, 人権侵害を防止し, より一層快適な教育環境及び職場環境を整えることを目的とする。

▶目標

教員及び事務系職員の管理的立場にある者に対し, 不調者の早期発見・早期対処方法等についての基礎知識を習得させることにより, 学生・教職員の心の健康保持増進を図る。

▶講演テーマ

TL及びSL等に対し, メンタルヘルスに関する基礎的な知識とメンタルヘルスクアの基本を習得する。

【アンケート結果】

アンケートは実施せず



人権啓発研修

【実施概要】

▶講師

岡本百合(広島大学保健管理センター)

▶日時

平成22年7月9日(金) 14:00～16:00

▶場所

愛媛大学本部2階第2会議室

▶参加者

40名(学内37名, 学外3_高知工科大学)

▶目的

近年, 学業や職務に対して強いストレスを感じ, 心の病気を抱える学生や教職員が増加傾向にあり, そのメンタルヘルスへの対応について, 本学の教員及び事務系職員のTL及びSL等に対し, 不調者の早期発見・早期対処方法等についての基礎知識を習得させることにより, 本学における学生・教職員の心の健康保持増進を図ることを目的とする。

▶講演テーマ

『人の人権を侵害することなく, お互いに豊かな心の交流をはかるには』

ハラスメントは, 人が人を傷つけ排除する行為です。双方のコミュニケーションのキャッチボールがうまくできていないことから起こります。コミュニケーションの工夫, 考え方・見方を少し変えるだけで, 変化を起こすことができます。多くの相談実績のあるカウンセラーからの視点で, 様々な事例, 様々なコミュニケーションスタイルを紹介し, 理解を深めていただきます。

【アンケート結果】

アンケートは実施せず



心理学から見た教室デザイン-学びを促す学習空間づくり-

【実施概要】

▶講師

城間祥子(愛媛大学教育企画室), 高橋麻衣(愛媛大学法文学部事務課)

▶日時

平成22年9月7日(火) 15:30~17:30

▶場所

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

12名(学内4名, 学外8_松山東雲女子大学, 高知工科大学)

▶目標

1. 国内外の大学の「学びの場」の事例を通して, 多様な学習環境があることを理解する。
2. 目的に応じた学習環境をデザインする。
3. 愛媛大学で学習環境を改善するために何が必要かを考える。

▶内容

1. 「教室」とは？
 - ・教室＝講義室？
 - ・単位の実質化
2. マギル大学の様々な「教室」
3. 「教室」デザインの要素
 - ・ヒト(組織)
 - ・コト(活動)
 - ・モノ(道具)
4. マギル大学の「教室改善プロジェクト」
5. 〈ワーク〉「教室」をデザインしよう！
 - ・デザインのポイント
6. 愛媛大学における学習環境の改善

※本講座では, 「ヒト(組織)」「コト(活動)」「モノ(道具)」という3つの観点から「教室」をデザインする方法を学びます。講義に特化した従来の教室では満足できない先生方, 教室の設置・維持管理に携わる職員の方の参加をお待ちしています。学ぶ意欲が湧いてくる「教室」のカタチを, 一緒に考えてみませんか？

【アンケート結果】

▶回答者

12名(100%)

▶満足度

[研修は全体的に満足できるものだった]

そう思う: 75.0%

どちらかといえばそう思う: 25.0%

▶コメント

[このセミナーの良かった点]

- 他の分野の方々と意見を交換することができ, よかった。
- 新しい発想で考えることができた。
- 参加型プログラムが用意されていた。(具体的なテーマ)
- 教員や職員といった, 違う立場の人の経験が, 教室デザインのワークに反映されていて面白かったです。
- 全員参加型、グループディスカッションをしたことで, 他社の意見が伝わりやすく, (絵も描いたことで) 今後の業務に活かしていけたらいいと思います。
- 教育機関の重要性を認識できた。
- 教室を見る目が変わるかも。

[このセミナーの改善点]

- できれば実際の教室を見学したかった。(愛大ミューズラウンジ)
- 実験室などの特殊な部屋の実例も知りたかった。



研究室運営方法のコツ-先輩が後輩を指導するシステムづくり-

【実施概要】

▶講師

城間祥子(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成22年9月17日(金) 13:00~15:00

▶場所

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2
遠隔システム

▶参加者

愛大ミューズ 0名(受講生なし)
遠隔システム 3名(高知学園短期大学, 阿南工業高等専門学校)

▶目標

1. 研究室のルールを作ることができる。
2. 研究室内で先輩が後輩を指導するシステムを作ることができる。

▶内容

1. 〈ワーク〉研究室運営に関する問題点の共有
2. 研究室教育をとりまく状況
 - (1) 中教審答申「新時代の大学院教育」
 - (2) なぜ研究室教育はうまく機能しなくなったのか
3. 研究室教育は必要なのか?
 - (1) 工学系卒業者への調査から
 - (2) 愛媛大学大学院教育WG報告書
4. ケーススタディ
5. 研究室への参加を促す仕組み
 - (1) 新しいメンバーがスムーズに研究室に入れるようにするには
 - (2) ルール作りのコツ
6. 先輩が後輩の面倒を見るシステムづくり
7. 〈ワーク〉研究室のルール作成

【アンケート結果】

▶回答者

愛大ミューズ 受講生なし
遠隔システム 3名(100%)

▶満足度

〔研修は全体的に満足できるものだった〕
どちらかといえばそう思う: 66.7%(遠隔)
どちらかといえばそう思わない: 33.3%(遠隔)

▶コメント

〔このセミナーの良かった点〕
遠隔システム
○ワークを通して何かしら結果(成果)が残ったこと。
○今行っていることの方向性に間違いがないことを確認できた。

〔このセミナーの改善点〕

遠隔システム
○送られてくる画面構成が異なっている。ずっと分割画面のままの時は見にくかった。他の講座では機器がうまく動作しなくて遅れたこともあり、操作マニュアルをブラッシュアップする必要があると思います。
○具体的に研究のやり方をテーマにして、その中でどのように学生が取り組むべきかについて事例を出して説明や紹介があればと思いました。
○最後に行われた、各自のFD活動の問題についての討論をもう少し時間がとれたら良かったと思います。

FDファシリテーター養成研修(西四国)

【実施概要】

▶講師

小林直人, 佐藤浩章, 秦敬治, 城間祥子, 大竹奈津子
(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成22年10月9日(土)～10日(日)

▶場所

愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

13名(学内5名, 学外8_松山大学, 高知大学, 高知工科大学)

▶目標

各学部でFDを企画・実施する立場にあるFDファシリテーターを養成するものである。一泊二日の合宿形式で行われる。FD担当者として次の三つの目標を達成することを目指す。

1. FDに関する基礎的な知識を説明できる。
2. 所属学部でFDプログラムを開発し, その実施担当者として行動することができるようになる。
3. コミュニケーション能力を向上させる。

▶内容

1日目「FD概論」

アイスブレイキング

1. FDの定義と歴史
 - ・FDの定義
 - ・FDの歴史と課題
 - ・FDを普及させた要因
2. FDの種類と問題点
 - ・能力開発の種類
 - ・FDの種類
 - ・従来のFDの問題点
3. FDの体系化
4. FD担当者の業務
 - ・FD担当者に求められる役割
 - ・FD実施組織の機能
5. FD参加者の動機
6. 課題の提示

2日目「プログラムの立案と実施」

1. ニーズ把握の意義
 2. ニーズ把握の方法
 3. プログラム作成の流れ
 4. 成人学習者の特徴
 5. 目的と目標の設定
 6. 評価方法の設定
 7. 研修技法の選定
 8. 研修日程と会場の選定
- 振り返り

【アンケート結果】

▶回答者

12名(92.3%)

▶満足度

[研修は全体的に満足できるものだった]

そう思う: 67.0%

どちらかといえばそう思う: 33.0%

▶コメント

[このセミナーの良かった点]

○様々な案・プランが同時に開示されることによって, 各大学・学部と自分の学部とを比較することができた。その結果, 自分たちが進んでいる部分、自分たちにはなかった部分(気づかなかった部分)を確認、発見することができた

○コンサルティング、教員表彰等、具体的な方法を学べたので実際に取り入れていきたい。

○愛媛大学の先進事例(コーディネーターの配置、カウンセリング制度)と個別の学部、学科の取組事例に触れることができた点。

○自分自身が感じている授業における問題点が明らかになったこと。(最初のKJ法で)今後、学部でFDを企画する上で、具体的なイメージを持つことができたこと。

[このセミナーの改善点]

○今回の研修では、文系学部が一つで、あとは全て(教育学部を除く)理系学部だった。できれば学部のバランスとすることがはかられた方がよかったと思います。

○研修の流れの表だけでなく、もっと内容を具体的にイメージできる図があると良かった。

○グループワークで行う内容をもっと具体的に説明した後で課題を実行して欲しい。

○研修評価に関するスライドのハンドアウトが預けられたらありがたかったです。(もちろん外部に出して良い内容だけで結構ですが)

○最後に行われた、各自のFD活動の問題点についての討論をもう少し時間がとれたら良かったと思います。



ファカルティディベロッパー養成研修

【実施概要】

▶講師

佐藤浩章, 城間祥子, 大竹奈津子, 山内一祥
(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成22年11月13日(土)～14日(日)

▶場所

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

6名(学内4名, 学外2_徳島大学, 高知大学)

▶目的

全学でFDを担当することになった教職員が、自大学で効果的な教育改革に取り組むために必要な知識と技術を身につける。

▶目標

1. 全学のFDを推進・牽引するリーダーとして必要な知識・技術・態度を身につける。
2. 研修講師や会議ファシリテーターとしての卓越した技術・態度を身につける。
3. 自らの活動を振り返り、抱えている課題を客観的に分析し、他者からの助言を踏まえて、解決策を見出すことができる。



▶内容

- ・FD専任担当者としての自らの活動の振り返り, 課題分析, ディスカッションを通じた解決策の模索
- ・自らの組織文化にあわせた, FD推進戦略立案
- ・実践を基盤とした研究(高等教育開発研究)の課題と可能性

第1日目(11月13日・土曜日)

内容

(1) オリエンテーション

- ・研修の目的・目標の確認
- ・スタッフ紹介とお願い

(2) 講義 I「諸外国から見た日本の高等教育開発」

(3) 研修 I「リフレクション」

- ・分析シートを活用して、これまでのFD活動の振り返りを行う(FDerポートフォリオ作成)。

集合写真撮影・昼食

(4) 研修 II「SPOD—FDプログラム体系化」

- ・SPODで実施している全FDプログラムをFDマップにあてはめ、マザーマップの作成を行う。マザーマップからSPODプログラムの強み弱みを洗い出し、必要であれば新たにプログラム開発を行う。

(5) 研修 III「アンケート作成」

- ・SPOD加盟校の個々の教員を対象として、SPOD事業の検証を行うためのアンケート(ニーズアンケートを含む)作成を行う。

第2日目(11月14日・日曜日)

(6) 研修 III「発表」

「マザーマップとアンケート作成」の結果報告と発表

【アンケート結果】

アンケートは実施せず

教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ

【実施概要】

▶講師

城間祥子, 大竹奈津子, 山内一祥, 泉谷道子, 岸岡洋介
(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成22年12月11日(土)～12日(日)

▶場所

国立大洲青少年交流の家

▶参加者

8名(学内6名, 学外2_高知大学)

▶目標

1. 適切な目的・目標設定ができるようになる。
2. 教えるための計画書を書けるようになる。
3. 様々な教育方法を知り, 目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
4. 様々な評価方法を知り, 目的・目標にあった方法を選択できるようになる。

▶内容

1. オリエンテーション・研修の目的・目標の確認
・スタッフの紹介とお願い
2. アイスブレイキング
・自己紹介 ・グループワーク
3. グループワークⅠ「良い教え方と悪い教え方」
4. グループ発表Ⅰ「良い教え方と悪い教え方」
5. 講義Ⅰ「目標設定と授業プランの作成」
・目標設定と授業プランの立て方 ・授業プランの書き方
6. グループワークⅡ「授業開発Ⅰ」
・目標設定 ・授業プランの作り方
7. 講義Ⅱ「様々な教育方法」
・講義形式のメリット ・デメリット ・双方向型授業のコツ
・体験型授業のコツ ・参加型授業のコツ
8. 講義Ⅲ「効果的なプレゼンテーション方法」
・論理的に話すコツ
・魅せるプレゼンの方法
9. 講義Ⅳ「よりよい評価の仕方」
・評価の目的 ・評価の方法と評価対象
・効果的なほめ方と叱り方
10. グループワークⅢ「授業開発Ⅱ」
・授業プラン作成 ・授業プランの評価作成
11. グループ発表Ⅱ「中間発表」
12. グループワークⅣ「授業開発Ⅲ」
・指導案づくり
13. グループワークⅤ「授業開発Ⅲ」
・役割決定 ・マイクロティーチング
14. グループ発表Ⅲ「ミニ授業(20分)」
・授業プラン紹介 ・ミニ授業 ・他グループからのコメント
・フロアも交えた討議・検討
15. 振り返り

【アンケート結果】

▶回答者

8名(100%)

▶満足度

[研修は全体的に満足できるものだった]

そう思う: 100%

▶コメント

[このセミナーの良かった点]

○人数も, 自分にとっては, ちょうどよかった。もう少し多かったら, 多かったで学びも大きかったと思います。

○何よりとても楽しかったです。

○授業プランを提出し, その後何度も改善点を指摘していただき, ありがとうございました。その視点で見ることによって, はじめて自分たちが満足できるプラン作りができたと思います。初心者である自分たちを導いてくれて感謝しています。

○同じ院生同士で, なおかつ分野や大学の異なる方との交流ができたので, 貴重だと思うし, 本当に楽しく取り組むことができた。

○スタッフの先生方も気さくに話してくださったので, とてもアットホームで楽しかったです。また来たいです。

○グループワークの時間が長かったので, このワークショップに対するやる気を維持できた。

○授業案が煮詰まった時, スタッフの方からアドバイスをもらったのがとてもよかった。視野を広げることができた。星が見れたのがよかった。とてもうれしかった。

[このセミナーの改善点]

○素晴らしい内容だと思うので, もっと多くの人に知ってもらって, もっと参加者を増やせる働きかけがあればいいと思います。

○話題はてんこ盛りで, 疲れは感じましたし, メンタリング, 大人の学習動機づけは関連しているものの, グループワークに直結しているわけではなかったため, 印象としてやや薄かったと思います。印象付けるワークがあればいいと感じました。

○一年でこの時期だけではなく, 前・後期に1回ずつあればいいなと思いました。内容は関連のあるもので, どちらか一方だけでも受講可でも構いません。



大学人、社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅠ)

【実施概要】

▶講師

原由紀子, 塩谷登志栄(株式会社インソース)

▶日時

平成22年5月31日(月)～6月2日(水)

▶場所

愛媛大学会議室

▶参加者

50名(学内20名, 学外30. 鳴門教育大学, 香川大学, 高知大学, 四国大学, 聖カタリナ大学, 新居浜工業高等専門学校, 今治明德短期大学, 高知学園短期大学 他)

▶目標

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

▶内容

大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)のうち、5つの研修科目を実施する。(原則として全部受講とするが、部分受講も可。)

■ビジネスマナー入門

■コミュニケーション入門

■プレゼンテーション入門

■職員キャリア形成入門

■リーダーシップ入門



【アンケート結果】

▶回答者

47名(94.0%)

▶満足度

〔研修は全体的に満足できるものだった〕

そう思う: 68.0%

どちらかといえばそう思う: 30.0%

どちらかといえばそう思わない: 2.0%

▶コメント

〔このセミナーの良かった点〕

○忙しい業務の中で忘れていたことや、疎かになっていたことを再度確認することが出来た。

○他大学との交流や情報交換も出来たので自大学を見つめ直す良い機会になった。

○他大学の現状を知ることも出来た。

○自分の気付かなかったこと、知らないことが理解出来て良かった。

○毎日席替えしたのが良かった。

○仕事に対する意識を変えることが出来た。

○他の大学の人や自分とは違う分野の仕事をしている人と交流できて刺激を受けることが出来た。

○志を新たに出来た。仕事に活かせる知識が増えた。

○ワークが多かったので話し合いが出来たところが良かった。

○今まで経験したことのない研修(ビジネス文書, 職員キャリア形成, リーダーシップ)が受けられて新鮮だった。

○四国中のいろいろな人とつながりを作る事が出来た。

○褒め方や人の話を聞く大切さを学べて良かった。知り合いが増えた。

○「気付き・発見」が多かった。例えば、自分の現状把握など。

〔このセミナーの改善点〕

○「対象者: 係員担当」とあったので参加したが、私の同期はほとんど参加していなかった。

○実施要項を見ただけでは、初任者研修と同じような内容かと思ってしまう。

○冊子が1つに纏まっていると紛失しづらいかと思った。

○もう少しスケジュールに余裕があると良いと思った。

○初任者研修とかぶっている所は必要無いのでは(どちらか片方にする)と思った。

○プレゼンテーションは研修だけでなく業務の中でやっていく機会を増やしたらもっと成長するかなと思った。

大学人，社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅡ-1)

【実施概要】

▶講師

塩谷登志栄(株式会社インソース)

▶日時

平成22年7月29日(木)～30日(金)

▶場所

愛媛大学会議室

▶参加者

57名(学内15名，学外42.鳴門教育大学，香川大学，高知大学，高知工科大学，四国大学，徳島文理大学，高松大学，阿南工業高等専門学校，松山大学 他)

▶目標

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

▶内容

大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)のうち，3つの研修科目を実施する。(原則として全部受講とするが，部分受講も可。)

■コミュニケーション実践

■プレゼンテーション実践

■リーダーシップ論



【アンケート結果】

▶回答者

55名(96.5%)

▶満足度

〔研修は全体的に満足できるものだった〕

そう思う:65.5%

どちらかといえばそう思う:32.7%

どちらかといえばそう思わない:1.8%

▶コメント

〔このセミナーの良かった点〕

○クレーム対応が参考になった。

○リーダーに求められる役割・指導・教育の方法を具体的に知ることが出来た。

○プレゼンテーション時の自分の短所・改善点をチェックしてもらえた。

○討論形式により違った意見が聞けてよかった。

○日常業務に役立つ内容だった。

○大学人として必要な“自己の大学の強み”などを意識し，仕事をしていくべきと感じ，意識改革になった。

○他大学の職員との意識の違いを感じ，よい刺激となった。

○他大学の方と情報交換をすることができた。

○以前に受講した研修よりもなじみやすく，内容的にもわかりやすかった。

○自分の欠点や改善点がわかり，振り返るよい機会となった。

○グループワークがバランスよく取り入れられていた。

○業務を円滑に進めるために必要なスキルを習得できた。

〔このセミナーの改善点〕

○あと半日くらい日程があれば，実習などにももう少し取り組めると思う。

○振り返り・フィードバックはある程度のスキルや人間関係の密度も関係があると思われるので，参加者の数，質は考え直した方がよいと思う。

○研修内容に応じて募集時に制限をかけてもらった方がよいと思う。

○遠方からの参加は，前泊が必要となるため通常業務への負担があったのが辛かった。

○コミュニケーション実践，リーダーシップ実践ともにもっと多くの事例を紹介してほしい。

○テーマが多く，もう少し絞り込んでもよかったように感じた。

○クレーム対応のバリエーションをもう少し取り入れてほしいかった。

大学人、社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅡ-2)

【実施概要】

▶講師

藤田 美紀, 飯塚登(学校法人産業能率大学総合研究所)

▶日時

平成22年9月28日(火)～10月1日(金)

▶場所

愛媛大学会議室

▶参加者

30名(学内15名, 学外15_高知大学, 高知工科大学, 聖カタリナ大学, 愛媛女子短期大学)

▶目標

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

▶内容

大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)のうち、2つの研修科目を実施する。(原則として全部受講とするが、部分受講も可。)

■異文化交流

■プロジェクト・イノベーション実践



【アンケート結果】

▶回答者

28名(93.4%)

▶満足度

〔研修は全体的に満足できるものだった〕

そう思う: 55.6%

どちらかといえばそう思う: 37.0%

どちらかといえばそう思わない: 7.4%

▶コメント

〔このセミナーの良かった点〕

○プロジェクト・イノベーションを実践的に学ぶことができたこと。

○文化の視点から構成された「文化地図」という世界地図の存在を知ることができた。

○何となく進めて失敗する原因はしっかりと設計ができていないことであり、今回手法の基礎が学べてよかった。

○今後海外の方と接する際に参考になる内容だった。

○プレゼンテーションの機会に恵まれた。

○情報の共有化、視点を変え視野を広げるきっかけになった。

○ネットワークを作ることができた。

○座学だけでなくワークがあったため、自分たちの気づきがあった。

○他大学の方の視点の違い、他業務の現場を実感することができた。

○他大学の状況を本音で聞くことができた。

○独学では難しい内容を丁寧に講義してもらえたこと

○自分に足りない能力に気づけた。

○自分が思っていたことを形にできた。

○自分の立ち位置を再確認できた。

〔このセミナーの改善点〕

○レベル向上のためにより少人数制のほうがよいと思った。

○私立大学の参加者が少なく、情報交換に偏りが見受けられた。

○業務との兼ね合いがあるため、研修日程はもう少し短いほうがよい。

○グループワーク時にファシリテーターの導入をしてはどうか。

○受講後の受講者間のネットワークの確保

○机の向きで講義中やや姿勢が苦しいことがあった。

○ポイントを大学の問題に近く考えるほうが理解しやすいと思った。

大学人、社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅢ)

【実施概要】

▶講師

村田孝博(学校法人産業能率大学総合研究所)

▶日時

平成22年11月16日(火)～19日(金)

▶場所

愛媛大学会議室

▶参加者

20名(学内12名, 学外8. 徳島大学, 高知工科大学, 高松大学, 聖カタリナ大学, 弓削商船高等専門学校)

▶目標

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

▶内容

大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅢ)のうち、2つの研修科目を実施する。(原則として全部受講とするが、部分受講も可。)

■人材育成論・実践論(育成)

■人材育成論・実践論(実践)



【アンケート結果】

▶回答者

19名(95.0%)

▶満足度

〔研修は全体的に満足できるものだった〕

そう思う: 36.8%

どちらかといえばそう思う: 52.8%

どちらかといえばそう思わない: 10.5%

▶コメント

〔このセミナーの良かった点〕

○他大学の方との交流や情報交換ができた。

○管理職に求められる能力及び知識の習得ができた。

○部下育成にあたっての知識・理論・方法が理解できた。

○自分に不足している部分(苦手な分野)が改めてわかった。

○人事評価の仕組みが理解できた。

○人事評価をする立場ではなかったため、職場での人事評価の不備がわかった。

○傾聴することの必要性を再認識した。

○管理職になる前に意欲が高まった。

○意識改革が図れた。

○普段は聞くことができない内容について勉強できた。

○グループワークが多かったので研修内容はメリハリがあり、受講しやすかった。

○講義とワークのバランスが丁度よいと思った。

〔このセミナーの改善点〕

○研修期間が4日間と長かったため、その間の仕事の調整が難しかった。何回かに分けた方がより吸収しやすかったのではないかな。

○研修期間を短縮できればよかった。

○この研修は、管理職としての知識を広く身につけようという趣旨だと思うが、反面、中途半端で各項目を深く行う方が意識の向上や実務に直接活かせるのではないかと感じた。

○研修は継続するべきであるが、ニーズを絞って効果的に実施すべきである。

○グループワークに入る前にもう少し受講者同士の情報を交換できる時間が欲しかった。

○研修が自大学で開催された場合、日常業務との切り離しができず研修に集中できないため、学外で実施すべきである。

講師養成研修

【実施概要】

▶講師

山田弘道(学校法人産業能率大学総合研究所)

▶日時

平成22年5月19日(水)～21日(金)

▶場所

愛媛大学本部2階第2会議室

▶参加者

17名(学内9名, 学外8_徳島大学, 香川大学, 高知大学, 四国大学, 聖カタリナ大学, 松山大学)

▶目標

1. 組織内講師の役割を説明することができる。
2. 教育課題の探索から研修詳細の設計まで考え方と方法を習得する。
3. 企画した内容を伝達できるインストラクションスキルを習得する。

▶内容

1日目

1. 教育担当者への期待・組織運営と教育の意義
2. 基礎情報の把握
3. 学習心理学の基本
4. グループ発表 I

2日目

5. 研修技法の基本
6. 研修内容の詳細設計
7. 研修資料作成のポイント

3日目

8. インストラクションの基本
9. 総合演習・設計した内容でのインストラクション
10. まとめ

【アンケート結果】

▶回答者

17名(100%)

▶満足度

〔研修は全体的に満足できるものだった〕

そう思う: 94.0%

どちらかといえばそう思う: 6.0%

▶コメント

〔このセミナーの良かった点〕

○講師養成ということで、一見速効性のない研修という印象を持ったが、実際には社会人、中堅職員として非常に役立つ内容だったと思う。3日という十分な時間を取って実施されたのが良かった。懇親会の設定等も交流面ではとても有意義だったと個人的には思う。講師が親切で素晴らしかった。

○講師の役割が理解できました。研修の意義が理解できました。時間がたっぷりあって良かったです。

○レベルの高い研修だったので、自分の未熟さを改めて実感できました。これからもっと意志を高めて業務に取り組んでいきたいと感じました。

○研修講師という自分が身につけたいと思っていたスキルを学ぶことができた。本当にスキルを身につけるためには、知識の取得と実習をくり返す必要があることを実感できた。

○グループで協力してできたことが、内容がよかった要因の1つだと思います。講師の先生も話しやすかった。

〔このセミナーの改善点〕

○発表内容がどうしても同じになってしまい、メリハリをつけるのが難しかった。

○テーマをわかりやすい事象からスタートした方がいいのでは？

○時間的にもう少し余裕があるスケジュールとする。



愛媛大学教育改革シンポジウム

【実施概要】

▶講師

愛媛大学教員(愛大GP取組担当者)

▶日時

平成23年3月2日(水) 13:00~16:20

▶場所

愛媛大学南加記念ホール, 校友会館

▶参加者

114名(学内110名, 学外4:徳島大学・山形大学・東雲短期大学・川崎医科大学)

▶目標

ポスターセッションでの質疑応答や講演の傍聴を通じ, 現在, 愛媛大学で進めている教育内容・方法の改善に関する取組について理解を深める。

▶内容

愛媛大学における優れた教育改革の取組を取り上げ, 教育経費の重点配分を行い, 教育の高度化・活性化を図る事業。学士課程及び大学院課程における組織基盤的な教育改革プログラムや組織横断的な教員グループによる創生的な教育開発プロジェクトを学内から公募。事業期間は2年間で, 毎年12件程度の取組を採択。採択された取組の中には, さらに内容を発展させ, 文部科学省のGPに応募, 採択された例もある。

1. 平成23年度愛大GP・国際連携GP申請へ向けた説明
申請内容の質の向上及び申請件数の増加を図る。
2. 愛大GP採択取組事例発表(発表各20分)
 - ①大学連携による理学部宇宙物理学コース教育の充実(22年度採択)
 - ②附属五校園の特別支援教育を重視した教育活動の推進(22年度採択)
 - ③質疑応答(10分)
3. 国際連携GP採択取組事例発表(発表各20分)
 - ①インドネシア共和国のバンドン工科大学, ハサヌディン大学およびゴロンタロ大学との地球科学分野におけるサンドイッチ・プログラムの開発(22年度採択)
 - ②国際性を備えた教育人材を育成する海外インターンシッププログラムの開発(22年度採択)
 - ③質疑応答(10分)
4. 愛媛大学GP、国際連携GP採択取組等の実施総括(ポスターセッション)

ポスターによる発表, 参加者との質疑応答を通じ, 発表者・参加者双方が教育内容・方法の改善に関する理解を深める。また, 学生や一般参加者に対しても, 愛媛大学の教育改革の現状を広く知らせる。

【アンケート結果】

▶回答者

34名(29.9%)

▶満足度

[研修は全体的に満足できるものだった]

そう思う: 53.3%

どちらかといえばそう思う: 46.7%

▶コメント

[このセミナーの良かった点]

- 愛媛大学教育改革に関わる計画性・成果等を盛り込む内容を会見させていただき, 大学の成長・進化等という舞台裏における姿を実に印象に残した。
- 学内教育を学生中心の視点で力強く進められており, 大学を支援させる気になった。
- 数十年を見据えた国際支援はまさに大学という公共セクターの使命を発揮していると思います。
- GPに関する種々の情報を得ることができた。
- 毎年見ていると, 各学部の方向性なども見れて面白い。(重点目標設定による多少の偏りはあるが・・・)
- 国際連携GPの取り組みについて発表してもらえたこと。これからの愛大GPとは全く違ったところが難しい点だということがよく分った。

[このセミナーの改善点]

- ご列席になられた方の中, 教員・大学指導者は大多数を占めたところから, 教育対象とされる生徒に同課題への参画・興味・認識を持たせる努力に物足りない点は視野に入れる必要もあるだろうと思う。
- 事前のPRを更に行うべきかと思う。
- ポスター会場と発表会場がすぐに近くの方がよいと思いました。
- 参加者が少ないのが残念です。教育プログラムなので関わった学生にも広く案内してはどうでしょうか。



英語で授業をしたい教員のためのワークショップ

【実施概要】

▶講師

小林直人(愛媛大学教育企画室)
ルース・バージン(国際教育支援センター)

企画スタッフ

田中寿郎(理工学研究科)
デイビッド・ボグダン(教育学部)

▶日時

平成22年8月31日(火) 13:00~15:00

▶場所

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

25名(学内25名, 学外0名)

▶目標(goal)

英語で授業をするときの一般的なガイドラインを説明できる。
ロールプレイ形式のワークショップで、英語による授業を経験する。

To learn some general guidelines for teaching in English.
To have an opportunity to practice in a role-play style workshop.

▶内容(contents)

1. 創成授業「異文化のまなざし」での事例報告
 2. 英語で授業をする際の一般的なガイドラインについて
 3. 質疑応答と休憩時間
 4. 授業の「良くない例」の事例実演とフィードバック
 5. 英語のミニ講義を作るグループワーク
 6. グループごとの模擬授業 ~留学生を前にして~
 7. まとめと振り返り
1. Report on the Issues in Research classes
 2. Go over general guidelines for teaching in English
 3. Q&A/short break
 4. Model class to use as demonstration "a bad example"
 5. Divide into groups to make a short lecture
 6. Presentation by participants
 7. Summing up

【アンケート結果】

▶回答者

23名(92.0%)

▶満足度

[研修は全体的に満足できるものだった]

そう思う: 43.5%

どちらかといえばそう思う: 56.5%

▶コメント

[このセミナーの良かった点]

○久しぶりにネイティブの英語を生で聴けた。

○勉強になった

○ワークショップの時間に実際に留学生が参加してくれたことで活気があり、授業中のような展開を想定したやり取りがあった事が特に良かった。

○第一歩として十分かと思えます。上級コースを楽しみにしています。

○グループディスカッションの重要性がよく分かった。

○体験とレクチャーのバランスが良かった。

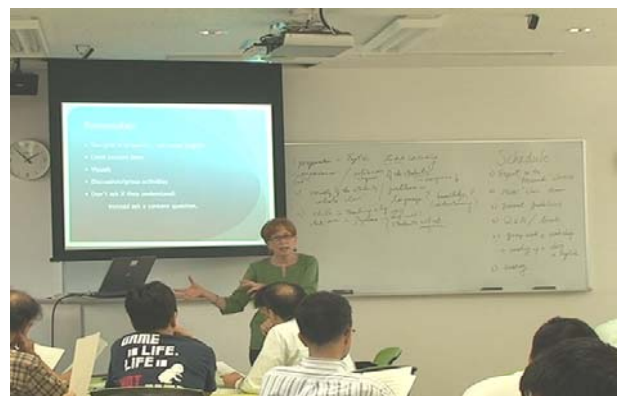
○今回は、全般的な狙いだったので、その役割を果たしていると思います。今後、様々な目的の英語の授業に合わせたセミナーを期待しています。

[このセミナーの改善点]

○グループワークをやりづらい

○何回かセミナーを開いたほうがいい

○専門科目の授業を英語でやる場合は、この研修のやり方は難しいと思います。



SPODシンポジウム2010

【実施概要】

▶日時

平成22年11月25日(木) 14:30～17:30

▶場所

愛媛大学南加記念ホール

▶参加者

106名(学内33名, 学外73. 香川高等専門学校, 弓削商船高等専門学校, 高知工業高等専門学校, 創価大学, 山口県立大学, 大学コンソーシアム石川, 国士舘大学, 麻布大学, 名古屋大学, 広島国際学院, 京都FD開発推進センター, 岐阜大学 他)

FDが義務化され, 各大学では教育改善を目的とした様々な取組が行われています。しかし, その多くは授業改善の取組(ミクロレベルのFD)であり, カリキュラムや教育プログラムの改善のための取組(ミドルレベルのFD)や教育・学生支援に関わる組織の構造及び組織間の関係をより機能的なものにするための取組(マクロレベルのFD)については, これからの課題となっています。

本シンポジウムでは, FDの先進国である英国から講師をお招きして, 大学教育の教育能力開発だけでなく, 研究能力開発も対象として使用されている「アカデミック・ディベロップメント」という概念を用いながら, アカデミックリーダーに求められる役割を探っていきます。

▶プログラム

◆開会挨拶(14:30～14:35)

◆趣旨説明、講師紹介、解説(14:35～15:00)

「英国におけるアカデミック・ディベロップメント」

佐藤浩章准教授(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長)

◆基調講演(15:00～16:00)※逐次通訳付き

「大学におけるアカデミック・リーダーの役割と課題」

ポール・ブラックモア教授(英国キングスカレッジ学習研究所所長)

◆補足解説(16:00～16:10)

佐藤浩章准教授(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長)

◆SPOD加盟校による事例紹介(16:10～16:50)

佐久間健人学長(高知工科大学)

香川征学学長(徳島大学)

◆総合討論(16:50～17:25)

◆閉会挨拶(17:25～17:30)

【アンケート結果】

▶回答者

70名(66.1%)

▶満足度

〔研修は全体的に満足できるものだった〕

そう思う:24.6%

どちらかといえばそう思う:62.3%

どちらかといえばそう思わない:13.0%

▶コメント

〔このシンポジウムの良かった点〕

○事例報告。イギリスの事例。リーダーシップはやはり単純な簡単な事ではないことが明確になった。

○理論、考え方、実際の例について幅広く理解することができた。大学長の先生方のリーダーシップに感動した。佐藤副室長の解説が大変参考になった。

○改革への熱気を感じることができた。リーダーシップという視点の重要性に気づかせられたことが一番良かったことである。

○それぞれの大学の置かれている状況が違う中で共通点もあることが確認できた(UKでも)。

○SPODを構成する大学の具体的な様子もわかり、四国の力を感しました。

〔このシンポジウムの改善点〕

○事例があまりに総論的な例であったので, もう少し検討していただきたい。

○多くの教職員が参加できるシステムをどう構築するか, 考える必要があります。参加人数が毎回少ないのがコア校としての悩みです。

○各クラス毎のパネルディスカッション等をテーマに応じて数クラス開催していただき, 知識を得るように願いたい。

○海外の事例のみならず, 他のコンソーシアムからも課題と改善策を提示してもらう機会になるとよい。



初年次教育の内容及びその教授法に関する研修会

【実施概要】

▶講師

佐藤浩章, 城間祥子(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成22年12月15日(水)

▶場所

愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2
遠隔システム

▶参加者

5名(学内0名, 学外5)
遠隔システム 36名(香川大学, 阿南工業高等専門学校,
高知大学, 高松大学, 高松短期大学)

▶趣旨

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(以下「SPOD」という。)では, 授業改善のファカルティ・ディベロップメント(FD)として, 既に授業を担当している教員向けの, 「各種FDプログラムの体系化・標準化に向けた開発, 実施」に取り組んでいる。平成21年度および平成22年度には, SPODにおいて実施するFD/SDプログラムを網羅的に掲載した統一ガイドブックを作成し, 加盟校の全教職員に配布した。これにより, 単独の組織ではなしえない多様なFDプログラムを受講することが可能になり, 各加盟校及び外部からも高い評価を得ている。その一方で, 各加盟校からは, ニーズを反映したFDプログラムのさらなる開発・実施を求める意見が多数ある。特に, 各加盟校との意見交換によるニーズ調査を実施する中で, 初年次教育に関する取組の実施についてニーズが多数あった。このことに早急に対応するため, 平成22年度のSPODのFDプログラムの一つとして, 初年次教育に関する以下の取組を実施することとした。なお, 実施時期については, 平成23年度の初年次教育の実施に間に合うことを前提にしている。

▶内容

1. 初年次教育の内容及びその教授法に関する研修会(愛媛大学での事例をもとに)を実施する。
※希望する加盟校には, 遠隔講義システム配信も行う。
2. メール等により, 各加盟校に対して, 愛媛大学が実際に使用している初年次教育に関する教材の一部「提供する教材」を紹介し, その提供希望について調査する。
3. 2の調査に基づき, 希望する加盟校へ教材を提供する。

【アンケート結果】

▶回答者

12名(29.3% 愛大と遠隔_合計)

▶満足度

[今回の研修は, 貴校の初年次教育を実施する上で参考になりましたか]

かなり参考になった: 41.7%

やや参考になった: 50.0%

回答なし: 8.3%

▶コメント

[初年次教育に関してSPODで実施してほしい取組みがあれば, 具体的にお書きください。]

○プログラム評価, アウトカム評価等に取り組んでいる。何かよいアドバイスがあればお願いしたい。

○自校教育に関する講座

○基礎学力が不足していると思われる学生に対する学力向上策。

○初年次教育における授業の映像(DVD等)を視聴したい。ノートテキングやレポート作成に関しての授業が, 実際どのように展開され, 学生がどのような活動をしているかの具体的な姿を拝見できればと思います。

○本学における初年次教育のとの比較検証が出来たように思います。今後本学にも共通テキスト(オリジナル)の作成を課題にできました。ありがとうございました。ベストプラクティスの大学間での共有の促進を継続的にお願いしたい。

○大学全体のFD, 学部でのFDで初年次教育の重要性の講演。

○初年次教育担当教員用ワークショップ

